

JTU Stories

公益社団法人日本トライアスロン連合 <JTU マガジン Web版> 2017年度 Vol.3

トライアスロン 2017

the home of
triathlon



NTT
triathlon
Japan Ranking



TOKYO 2016

2020年のオリンピック・
パラリンピックの興奮を先取り
日本一を決めるレースをお台場に見に行こう



**JTU
Stories**

No.

03

Top interview

トップ・インタビュー

2020年のオリンピック・ パラリンピックの興奮を先取り 日本一を決めるレースをお台場に見に行こう

田山 寛豪

ー:田山選手が最初にトライアスロンを知ったのはいつですか。

田山:私が生まれた茨城県大洗町で高校時代まで過ごしました。近所に住む人がトライアスリートだったので、県内に雨情の里トライアスロン大会や、潮来トライアスロン大会、波崎

トライアスロン大会などがあることは知っていました。

高校時代は水泳部で、2年生のときには駅伝部にも所属しました。1999年(平成11年)、3年のときに翌年のシドニー・オリンピックでトライアスロンが正式競技になることの盛り上がりから、腕試しのつもりで

潮来トライアスロン大会に出場したところ、ジュニア部門で優勝しました。『茨城新聞』で記事になり、これはいけるんじゃないか、と良い意味で勘違いしてトライアスロンを始めたのです。

その年の7月に行われた日本スプリント選手権東京港大会に出場し、

トライアスロンデビューは1999年

短い距離でしたが見事にバイクでラップされ、天狗の鼻を折られた形となりました。しかしながらその反面、本気で練習したらいけるかも、と思ったのも確かです。

翌2000年（平成12年）、流通経済大学に入り駅伝部に入部しました。そして、9月のASTCアジアカップ村上大会に出場して7位となりました。

—：なかなかの滑り出しでしたね。2001年（平成13年）はどうでしたか。

田山：前年の成績を受けて国際大会に出場が可能となり、ITUワールドカップ蒲郡大会では33位、ASTCアジアジュニア選手権（サバ・マレーシア）で優勝、ITUアジアカップ七ヶ浜大会で7位、ITU世界ジュニア選手権（エドモントン・カナダ）で27位、ITU

ワールドカップ山口大会で19位となりました。そして、10月に行われた第7回日本選手権東京港大会で優勝したのです。

—：短期間で、信じられないような成長をしたわけですね。

田山：実は私はときどき、自分でも分からないようなすごい力を発揮することがあるみたいです。

—：周りには、エリートカテゴリーで活躍するトップ選手ばかりでしたね。

田山：そのときは、シドニー・オリンピックに出たあこがれの小原工選手、西内洋行選手、福井英郎選手と一緒にレースできることが何よりもうれしかったですね。スイムから



Profile

田山 寛豪

Hirokatsu Tayama

所属：NTT東日本・NTT西日本／流通経済大学職員

1981年（昭和56年）、茨城県生まれ。1999年（平成11年）の潮来トライアスロン大会でデビュー。2001年（平成13年）に日本選手権に優勝して以来、2016年（平成28年）までに10度の日本チャンピオンに輝く。日本のトップアスリートとして国内外で実績を残し、アテネ・北京・ロンドン・リオデジャネイロと、4大会のオリンピックに日本代表として連続出場を果たす。

JTU
Stories

No.

03





Top interview
トップ・インタビュー

日本選手権は特別なレース

平野司選手や山本淳一選手、斉藤大輝選手も一緒に、ランで競り勝って優勝できました。本当は、私が何で勝ったのかよく分からないんです。神様が力を貸してくれたのでしょうか。東京・お台場という特別なロケーションからでしょうか。とにかくその優勝で、オリンピックに行きたいと思う気持ちがとても強くなりました。

—:2002年(平成14年)の日本選手権2位、2003年(平成15年)は3位となった後、2004年(平成16年)に2度目の優勝をしましたね。

田山:その後も何度か優勝を重ねることができて、昨年(2016年)の勝利で10回を数えることができました。これだけ勝っていると、お台場

の日本選手権は自分にぴったり合っていると思えてなりません。

—:お台場でのレースのどんなところが好きですか。

田山:雰囲気が好きですね。ワールドカップなどのほかの大会にはないものがあります。観客がとても近くで観戦してくれるし、応援もすごい。

日本選手権だということもあって、ここで決めなきゃ男じゃない、と思えます。

—:日本の首都・東京で行う日本選手権への思い入れは、ほかとは違いますか。

田山:日本一の場所です。戦う選手と観客との一体感には、特別のもの

第23回日本トライアスロン選手権(2017/東京・台場) 10月15日(日)

- 7:00 バラトライアスロンデモンストレーションスタート
- 8:25 女子スタート
- 11:00 男子スタート
- 13:30 メダルセレモニー(日本選手権・NTTジャパンランキング表彰)

大会WEB:http://www.jtu.or.jp/national_championships/
テレビ放送:NHK・BS1で放送(10月30日(月)19:00~20:50)

トップ選手の息づかい、 目力を感じてほしい

があります。集まる観客は、日本のレースを見に来ます。レースを行う選手は、日本一のアスリートになるとうします。そこだけ考えると、とてもシンプルです。また、高層ビルやレインボーブリッジなど、ほかにはない口ケーションですから、何しろ、観客との一体感がすごいですね。

—：レースの見所はどこでしょう。

田山：東京港のスタートラインに立つまでに、選手がどれだけのことをやってきたか。まずそこを、感じてください。レース前の選手の身体と雰囲気を見て、レース本番当日の選手の様子を見逃さないでほしいです。そして、表情の後ろにある選手の心の動きを感じてください。選

手がスタートエリアに入った、その瞬間のオーラを感じてほしいですね。お台場に行ったら、必ず見てほしいところです。

—：ずばり、ベストの観戦ポイントはどこでしょう。

田山：すべてを見逃してほしくないのが難しいですね。スイムからバイク、ラン、フィニッシュへと、選手の息づかいを間近で感じてほしいので、極力選手に近いところで観戦してください。スイムスタート、トランジション、バイクコースのカーブなどは良い観戦ポイントの一つです。そして何と言っても、フィニッシュ。観客の皆さんの盛り上がりや、応援の雰囲気も楽しんでもらいたいと思

います。

—：今年の注目選手は誰ですか。

田山：女子は、ケガから復帰してきた上田藍（ペリエ・グリーンタワー・ブリヂストン・稲毛インター）を中心に、10月8日（日）のITUワールドカップ・サラソタ大会で優勝した井出樹里（スポーツクラブNAS）、調子を上げている佐藤優香（トーションパートナーズ、NTT東日本・NTT西日本、チームケンズ）、高橋侑子（富士通）、福岡啓（神奈川県連合）、それに蔵本葵（東京ヴェルディ）、松田友里恵（ペリエ・グリーンタワー・稲毛インター）がどう食らいつくかでしょう。

男子は、自分のレーススタイルにはまると強い古谷純平（三井住友海上）、



JTU
Stories

No.

03

日本一のレースが目の前で展開する

手も、負けるために出場はしないでしょう。つまり、みんなスタートしたら勝ちに行きます。今回の自分もそうです。

一:いままでの優勝のなかで、いちばん苦しかった年はいつですか。

田山: 昨年です。リオデジャネイロ・オリンピックがDNFの後の日本選手権でしたから、追い込まれている気持ちをもってレースに臨みました。

一:2020年の東京オリンピック・パラリンピックでは、このお台場が戦いの舞台になります。

田山: 首都・東京でオリンピック・パラリンピック競技を行うという意味は

特別なものがあります。たとえば、選手村から歩いて会場に来られるロケーションや、ほかの競技会場が近いことなども、ほかの大会にはない東京オリンピック・パラリンピックの一体感が味わえるのではないのでしょうか。

一:東京オリンピック出場はどうですか。

田山: とりあえず、気持ちだけはとても出たいと思っています。

一:日本選手権を見に来られるお客さまへ、メッセージをお願いします。

田山: 東京オリンピック・パラリンピックの競技会場のお台場で開催さ

れる日本選手権でオリンピック・パラリンピックを感じ、イメージしながら見てほしいと思います。何しろ、特別なレースですから。選手の息づかい、動き、身体の具合、選手がどこに目を向けてレースしているかなどに注目してください。勝とうとする選手は、目力が違いますよ。何より、選手を身近に感じながらトライアスロンを見てほしいのです。

一:当日は、パラトライアスロンのデモンストレーションも行われますね。

田山: そうなんです。このレースは、絶対に感動できますから、必見です。朝7時にはお台場のスタートエリアにお越しただきて、ぜひパラトライアスロンから楽しんでください。

JTU
Stories

No.

03